

きょうじ福祉俱乐部により



2018年 8号

"高齢者の住まい"アラカルト

第4回「住まいと健康」

今回は、“住まい”とそこで暮らす人々の健康について考えてみましょう。

私達日本人は、温暖多湿のモンスーン気候の列島で暮らしてきました。もちろん、これからもそれは変わりません。夏は6月から7月中旬まで、湿度の高い蒸暑い日々を過ごします。

ちょうど、7月中旬(17日)山鉾巡行の祇園祭の最高潮の時を境に、乾季の夏を迎えます。余談ですが、「祇園祭」は平安時代、この蒸暑い時期に疫病が流行り多くの子供たちが亡くなり、特に、女の子より体が弱い男の子が多く亡くなりました。親たちは、家を継ぐ男の子の死を嘆き悲しました。「祇園祭」は男の子の死を悼み、また子供の健康を切願することを目的として永々と取り組まれてきました。

そして、日本は過ごしやすい秋を迎える、寒い冬を過ごすことになります。

そのような日本の気候を考慮して、先人は「住居」を造ってきました。且つ、この列島に存在する材料を上手に使って造ってきました。豊富な木材、竹、い草、そして土、また紙を建材として利用してきました。

日本人はこのように「木造建築」で暮らしてきた訳ですが、では、先人たちがこの列島の気候に合う、すなわち、日本人に合った「住まい」を、現代の発展した化学で分析して検証してみましょう。

先ず、最も利用するのが木材ですが、この木材は加工するには容易であるとの他に次に示すような効能(メリット)があります。

1. 木材には「消臭」「防菌」「防カビ」の効能があり“人に優しい”材料である。
木材にはフィトンチッドやマイナスイオンが含有しており、これらは「消臭」「防菌」「防カビ」の効能があり、体の免疫力を高め、注意力の向上、血圧の低下、自律神経の安定を促す。すなわち、心を穏やかにする効果が大きい。
2. 木材には、有害な物質を吸収する効能や、太陽光中の紫外線を吸収する効能があり、人体へのダメージを和らげてくれる。
3. 木材は、温度を調整してくれる効能がある。
木材は多孔性の素材であり、熱伝導率が低い為に室内の温度をある程度調整してくれる。
4. 木材は、湿度を調整(吸収)してくれる効能がある。
木造家屋はコンクリート造に比べ、年間平均湿度は8~10%低い。従って、屋内の湿度の快適とされる60%に近づけてくれる。

以上のように、木造建築には日本の気候にあった、人に合った優れた効能を持つ家屋といえます。

最近、木造であってもボードやビニールクロスで全面覆うプレハブ住宅が世の中に蔓延していますが、決して、健康な住宅とはいえません。

(つづく)

- 藏田 九 プロフィール
- 1948年 山口県生まれ 70歳
- (有)地域にねざす設計舎タップルート代表
- (社会的役割)
 - ・立命館大学産業社会学部 非常勤講師
 - ・京都女子大学生活科学部 非常勤講師
 - ・京都市身体障害者連合会住環境改善事業
運営委員会 委員長
 - ・「住まいは人権」の実現めざす連絡会代表
 - ・「京都・住まいの支援ネットワーク」代表
 - ・「高齢者の居場所づくり連絡会」世話人
 - ・「下京・高齢者福祉をよくする会」顧問
 - ・「上京まちづくりフォーラム」事務局長

障害者手帳発行の誤った理解



先日あるケアマネージャさんから
「この人の身体が動かないのは老化だから障害者手帳は取れない」
と医師に言わされたと相談がありました。
…結論から言います。

障害者手帳は老化であろうが身体に社会生活のハンディとなる機能の低下があれば取得可能です。

厚労省が示す「疑義解釈的回答」には次の様に記載されています。
「加齢のみを理由に身体障害者手帳を交付しないことは適当でなく、身体障害者の自立と社会経済活動への参加促進を謳った身体障害者福祉法の理念から、近い将来において生命の維持が困難となるような場合を除き、認定基準に合致する永続する機能障害がある場合は、認定出来る可能性はある。」（身体障害者手帳認定基準及び認定要領 以下略）とあります。

実はこの事を知らない相談員の方も多いようです。

この手帳を取得出来れば介護保険で不足するサービスを補ったり、医療費の助成、駐車禁止の除外証の発行など様々な支援が可能となります。

もしも老化を理由に発行出来ないと言われたらぜひこの疑義解釈を示して下さい。

命と暮らしを守るために大切な権利を守りましょう。

疑義解釈はきょうと福祉俱楽部に全文あります。

必要な方はお声がけ下さい。

特別障害者手当について

認知症だけでも受けられる事があります

肢体不自由が重度の方が国の手当である特別障害者手当（月額 26,810 円）を受けられる事は以前にもお伝えしました。

しかし意外と抜けているのが重度の認知症をお持ちの方です。

体が動いたとしても日常生活の近くで介護が必要な場合、二の手当が受給出来ることがあります。

二の制度には所得制限があるものの恩制度と比べて緩やかな制限です。

介護保険の利用料が高いと利用をためらっている方はぜひ受給を検討してみて下さい。

きょうと福祉俱楽部では制度利用の件でお困りの方、利用者さんからも援助者さんからの問い合わせをお受けしています。

kyoto-care 有限公司 おとくに福祉研究所
きょうと福祉俱楽部

〒617-0824
長岡京市天神4丁目7-12 ハイツ東台101号
TEL 075-958-2560
FAX 075-957-2808
E-mail kyoto-care@club.email.ne.jp

